		度事務	事業実	績評	価表						課名	~	校教育課	事業No.		287
<u> </u>	事業概要										会計			争耒N0.		201
	事務	事務事業名			ዸ校特	別支持	爰教育支援事業	ĺ		事	業区分	IJX Z	政策	実施区分		継続
		7.W 7.K L						•			開始			終了		
	3	主要区	<u>分</u>	主		記号計画等名称										
	Ě	戦略計画														
+0																
根 拠	分分	分野別計画														
			·													
	>+.	Δ /Σι!	+0 ^/	_		交教育										
	法令・例規等				早早	害者基	:4)法									
	= = =	対			特別	別な支	援を要する中	学校生徒								
-	事業目	目的	図	当該生徒の学校での学習活動を円滑且つ効果的に実施できるよう支援する。												
2 事	業内									- L -						
		1 亜介田			月音々		取組内容 に遅れや偏りの	ひある生徒をき	揺す	経費の内容 援す 特別支援教育支援員賃金				事業費(千円) 16,651		
				要な学校に特別支援教育支援員を配置し、個々の特別支援学級											717	
							いました。	⊁ □ 44 \. 1 → 11	n ldr A							
			付別文 施しま			复貝の	スキルアップ	と目的とした例	* 修会							
	年度	3 !	特別支	援学	級や通		導教室など、特)推進							
ДX	組						整備しました。 古塚学校左籍/		なたむ							
		4 副学籍制度による特別支援学校在籍生徒と副学籍校における学習・交流活動や、生徒の状況や要望を踏まえた就学校														
		ける:	学習・													
				交流	舌動や	、生		星を踏まえた勍	党校							
				交流	舌動や	、生	徒の状況や要望	星を踏まえた勍	化学校 いた。	その他の						0
			断など	交流 、イ	舌動やンクル	レーシ	徒の状況や要望	星を踏まえた勍	だ学校 た。 平成2	28年度	平成29		平成30年度	令和元年	度	0 令和2年度
		の判	断など指標	交流: 、イ: 名 (舌動や ンクル 数 値で	ら、生 レーシ で表せ	徒の状況や要望 ブ教育の推進に	望を踏まえた前 こ取り組みまし 単位	だ学校 た。 平成2				平成30年度 実績 11		度	
		の判	断など	交流: 、イ: 名 (舌動や ンクル 数 値で	ら、生 レーシ で表せ	徒の状況や要望 ブ教育の推進に	望を踏まえた家 こ取り組みまし 	だ学校 た。 平成2	28年度	平成29	Į	実績		度	
活動	1指標	の判 特別:	断など指標	交流: 、イ: 名 (舌動や ンクル 数 値で	ら、生 レーシ で表せ	徒の状況や要望 ブ教育の推進に	望を踏まえた前 こ取り組みまし 単位	だ学校 た。 平成2	28年度	平成29	Į	実績		度	
活動	1指標	の判 特別:	断など指標	交流: 、イ: 名 (舌動や ンクル 数 値で	ら、生 レーシ で表せ	徒の状況や要望 ブ教育の推進に	望を踏まえた前 こ取り組みまし 単位	だ学校 た。 平成2	28年度	平成29	Į	実績		度	
活動	指標	の判 特別:	断など指標	交流: 、イ: 名 (舌動や ンクル 数 値で	ら、生 レーシ で表せ	徒の状況や要望 ブ教育の推進に	望を踏まえた前 こ取り組みまし 単位	だ学校 た。 平成2	28年度	平成29	Į	実績		度	
活動	指標	の判 特別:	断など指標	交流: 、イ: 名 (舌動や ンクル 数 値で	ら、生 レーシ で表せ	徒の状況や要望 ブ教育の推進に	望を踏まえた前 こ取り組みまし 単位	だ学校 た。 平成2	28年度	平成29	Į	実績		度	
活動	指標	の判 特別:	指標:支援教	交流(名) 育支	舌動や ンクル 数 値で	ら、生 レーシ で表せ	徒の状況や要望が教育の推進に ででである。 る活動量)	望を踏まえた前 こ取り組みまし 単位	だ学校 た。 平成2	28年度	平成29	12	実績 11		度	
活動)指標	の判 特別:	新など 指標 教 予決	交、名 育 額額	舌動やパ 数 優 優 景	ら、生 レーシ で表せ	徒の状況や要望 ブ教育の推進に	望を踏まえた前 こ取り組みまし 単位	だ学校 た。 平成2	28年度	平成29	12	実績		度	
304	丰度	の判 特別:	新など 指標 教 予決 国	交、 名 育 9 額額 1 1 1 1 2 1 2 1 3 1 4 1 5 1 6 1 7 1 8 1 9 1 9 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 2 1 2 1 3 1 4 1 4 1 5 1 6 1 7 1 8 1 8 1 9 1 1 1 1 1 2 1 2 1 3 1 4 1 4 1 5 1 6 1 7 1 8 1 8 1 8 1 9 1 1 1 <td< td=""><td>活動 ヤハ (</td><td>ら、生 レーシ で表せ</td><td>徒の状況や要望 ブ教育の推進(る活動量) 17,732 17,368 0</td><td>望を踏まえた前 こ取り組みまし 単位</td><td>だ学校 た。 平成2</td><td>28年度</td><td>平成29</td><td>12</td><td>実績 11</td><td></td><td>度</td><td></td></td<>	活動 ヤハ (ら、生 レーシ で表せ	徒の状況や要望 ブ教育の推進(る活動量) 17,732 17,368 0	望を踏まえた前 こ取り組みまし 単位	だ学校 た。 平成2	28年度	平成29	12	実績 11		度	
30 ⁴ 決	年度	の判し特別に対象を	新など 標: 支 予決 国県	交、 名 育 9 額額 支出	活動 4 / / / / / / / / / / / / / / / / / /	ら、生 レーシ で表せ	徒の状況や要望 ブ教育の推進(る活動量) 17,732 17,368 0 0	望を踏まえた前 こ取り組みまし 単位	だ学校 た。 平成2	28年度	平成29	12	実績 11		度	
30 ⁴ 決	丰度	の判し	新など 標: 支援 予決 国県地で	交、名育 「額額」を出債の他	舌かり 数	ら、生 レーシ で表せ	徒の状況や要望 ブ教育の推進に る活動量) 17,732 17,368 0 0 0	望を踏まえた前 こ取り組みまし 単位	だ学校 た。 平成2	28年度	平成29	12	実績 11		度	
30 ² 決 (千	年度 算 一円)	の判り	新など 標: 支 予決 国県地で のの の の の の の の の の の の の の の の の の の	交、名育 「 ないでは、 ないでは	舌ン 数 爰 出金 源	ら、生 レーシ で表せ	徒の状況や要望 ブ教育の推進に る活動量) 17,732 17,368 0 0	望を踏まえた前 こ取り組みまし 単位	だ学校 た。 平成2	28年度	平成29	12	実績 11		度	
30 ² 決 (千	丰度 算 一円)	の判りを持別に対象を構	新など 指標教 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	交、 名 育	舌ン 数 爰 出金 源科大動々川 で 数	中 中	徒の状況や要望 ブ教育の推進し る活動量) 17,732 17,368 0 0 0 17,368	望を踏まえた。 単位	だ学校 た。 平成2	28年度	平成29	12	実績 11		度	
30年 (千	事度 第一件	の判りを構成しています。	新 指 接 予 決 原 は す は ほ の の の の の の に の は の の に の の の の の の の の の の の の の	交、名育 「 の の の の の の の の の の の の の の の の の の	舌ン 数 爰 出金 源科大事業動々川 で 数	- Page 1	徒の状況や要望 ブ教育の推進し る活動量) 17,732 17,368 0 0 0 17,368	望を踏まえたまし 単位 人 決算額	は学校 ルた。 平成2 実	28年度	平成29 実績	12	実績 11		度	
30 ² 決 (千	丰度 算 一円)	の判りを持別に対象を構	新など 指標教 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	交、 名 育	舌ン 数 爰 出金 源科大動々川 で 数	(で表せな) 中事	徒の状況や要望 ブ教育の推進し る活動量) 17,732 17,368 0 0 0 17,368	望を踏まえたまし 単位 人 決算額	は学校 ルた。 平成2 実	28年度	平成29	12	実績 11		度	

番号	会計	款	項	目	大 事 業	中事業	予算額	決算額	中事業名(科目名称)		
1	1	10	3	2	12	2	17,732	17,368	特別支援教育支援事業費		
2											
3											
4											
5											
6											
7											
振返	り課題	認識	・特別な支援を必要とする生徒数が増加傾向にあります。支援員の適正な配置や教室の環境整備等に努めていますが、学校の要望に応えきれていない状況です。 ・特別支援学級や通級指導教室の生徒数が増加しており、個々に寄り添った学習支援が求められています。 ・副学籍による学習交流において、在籍校と副学籍校との事前調整や相互の理解促進など、実践面での課題があります。								
上記の課題解決 が象生徒や学校の的確な状況把握、特別支援教育支援員の適正な人数及び効果的な配置に関する検討が必要 ・ 副学籍校における障がい者理解教育の充実や副学籍制度の理解促進が必要です。 ・ 特別支援学級や通級指導教室担任の専門性の向上や、学習環境の充実が必要です。								制度の理解促進が必要です。			
	度に向取り組		・教育指導主事、教育相談員等が計画的に学校を訪問し、学校や生徒の状況把握、情報共有、的確な指導に努めます。 ・特別支援教育の充実や、障がい者理解教育の推進するため、職員向け研修会を計画的に開催します。 ・特別支援学校の副学籍コーディネーターとの連携を密にし、副学籍による学習や交流を支援します。								